

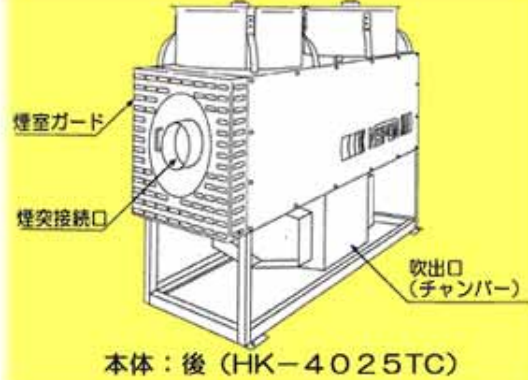
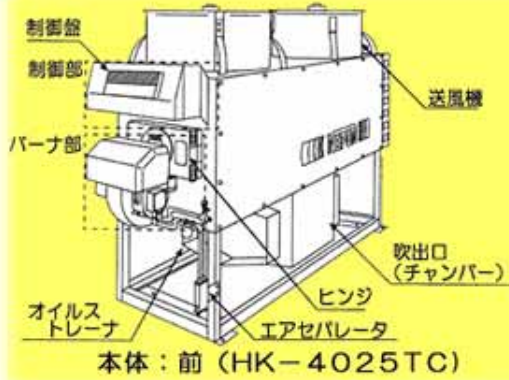
ハウスカオンの メンテナンスについて

目次

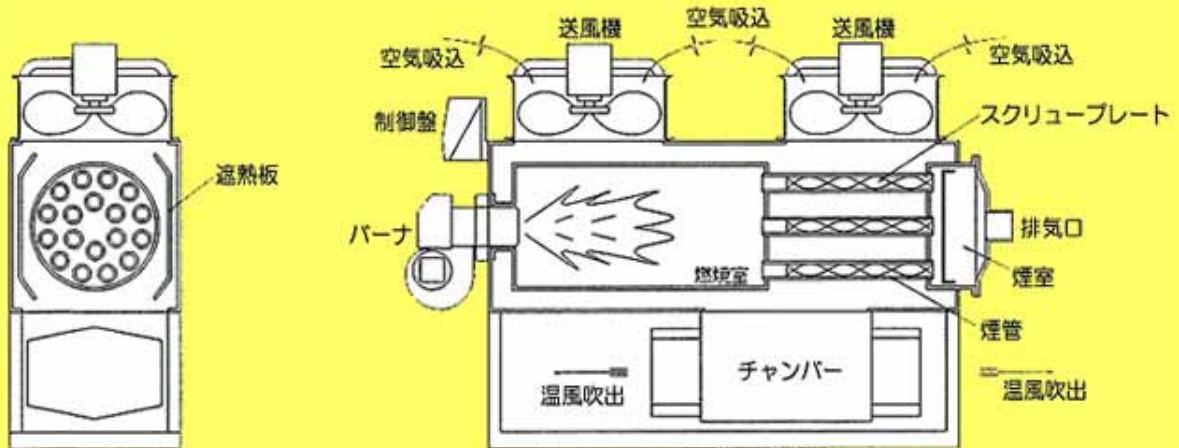
ハウスカオンキ各部の名称	3
【加温開始編】	4
<メンテナンスの方法>	
バ - ナ廻りの清掃・点検	5
STEP 1 ノズルの交換とディフュ - ザ - の清掃(機種別)	6
5～10型 (赤色の機種)	7
20・22型 (灰色の機種)	16
25型 (緑色の機種)	20
27型 (オレンジ色の機種)	27
STEP 2 ストレ-ナの掃除	15
STEP 3 火炎検出器の清掃(機種別)	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
【加温終了編】	36
<メンテナンスの方法>	
STEP 1 缶体の掃除はシーズオフに！ ～掃除の方法～	37
STEP 2 油配管のバルブ操作	39
STEP 3 元電源は必ず切る！	40
STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し	40
ちょっとひとこと	41
最後にお願ひ	42

ハウスカオンキ、各部の名称確認

作業は各自の責任において行ってください。



点検の前に、ハウスカオンキの各名称を確認しましょう！



ハウスカオンキ構造図

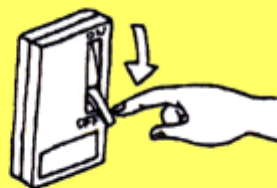
ハウスカオンキの各名称がわかったら、実際にメンテナンスを行なってみましょう。

加温開始編
P 4 へ

加温終了編
P 37 へ



電源を切る



全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

【加温開始編】

シーズンオン 秋～冬

秋になり、
そろそろ暖房機の準備をする
時期となりました。



急な冷え込みであわてて準備をすると
機器の調整不備や部品の不良など
思わぬ不具合で時間がかかってしまったり、
後々不具合が発生したりします。

時間的に余裕のあるこの時期にメンテナンスを行い、
もうすぐ来る暖房シ - ズンに備えましょう。



作業は各自の責任において行なってください。

加温開始編

シーズンオン 秋～冬

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

- **バ - ナ廻りの清掃・点検**
暖房機のカナメといえるバ - ナは、様々な部品から構成されており定期的に整備や部品の交換が必要です。これを怠ると不着火など重大な故障にもなりかねないので、トラブルを未然に防ぐ為にも実施をお願い致します。
- **ノズルの交換とディフューザ - の清掃**
燃料噴霧ノズルは、使ううちに磨耗してしまいます。磨耗したノズルは燃油を噴霧するための溝が大きくなり、燃油量が増えることでオ - バ - ロ - ドとなります。このような状態では、缶体を痛めたり燃焼状態を悪くさせたりしますので、故障の予防の為にもノズルのシーズン毎の交換をお勧めいたします。また、ノズルは噴霧圧力と共に、各機種(熱出力)別にサイズが決められていますので機種に合ったノズルを使用して下さい。

ハウスカオンキ型式	ノズルサイズ	噴霧角度	設定油圧MPa(kgf/cm ²)	ノズルタイプ
155・156・158・160	1.0 G	80 °	0.78(8.0)	SS (ハーゴ製)
1520・1522・1525・1527	1.1 G		1.03(10.5)	
205・206・208・210	1.35 G			
2020・2022・2025・2027				
305・305・308・310	2.0 G		1.03(10.5)	
3020・3022・3025・3027			1.03(10.5)	
405・406・408・410	2.5 G		0.93(9.5)	
4020				
4022・4025・4027	2.75 G		1.03(10.5)	
505・506・508・510	3.5 G		1.03(10.5)	B (デラバン製)
5020・5022・5025・5027			1.03(10.5)	
605・606・608・610	4.0 G		1.03(10.5)	
6020・6022・6025・6027		1.03(10.5)		

ギヤポンプ A2 - 70の場合は0.93MPaで使用すること。

ハウスカオンのタイプ別に作業手順が若干異なりますので、
次のページの4タイプのうちいずれか該当する機種を選択して下さい。



お使いの機種を選びましょう。

加温開始編

シーズンオン 秋～冬

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。



< 5～10型 >
赤色のハウスカオンキは
P 7へ



< 20・22型 >
灰色のハウスカオンキは
P 16へ



< 25型 >
緑色のハウスカオンキは
P 20へ



< 27型 >
オレンジ色のハウスカオンキは
P 27へ

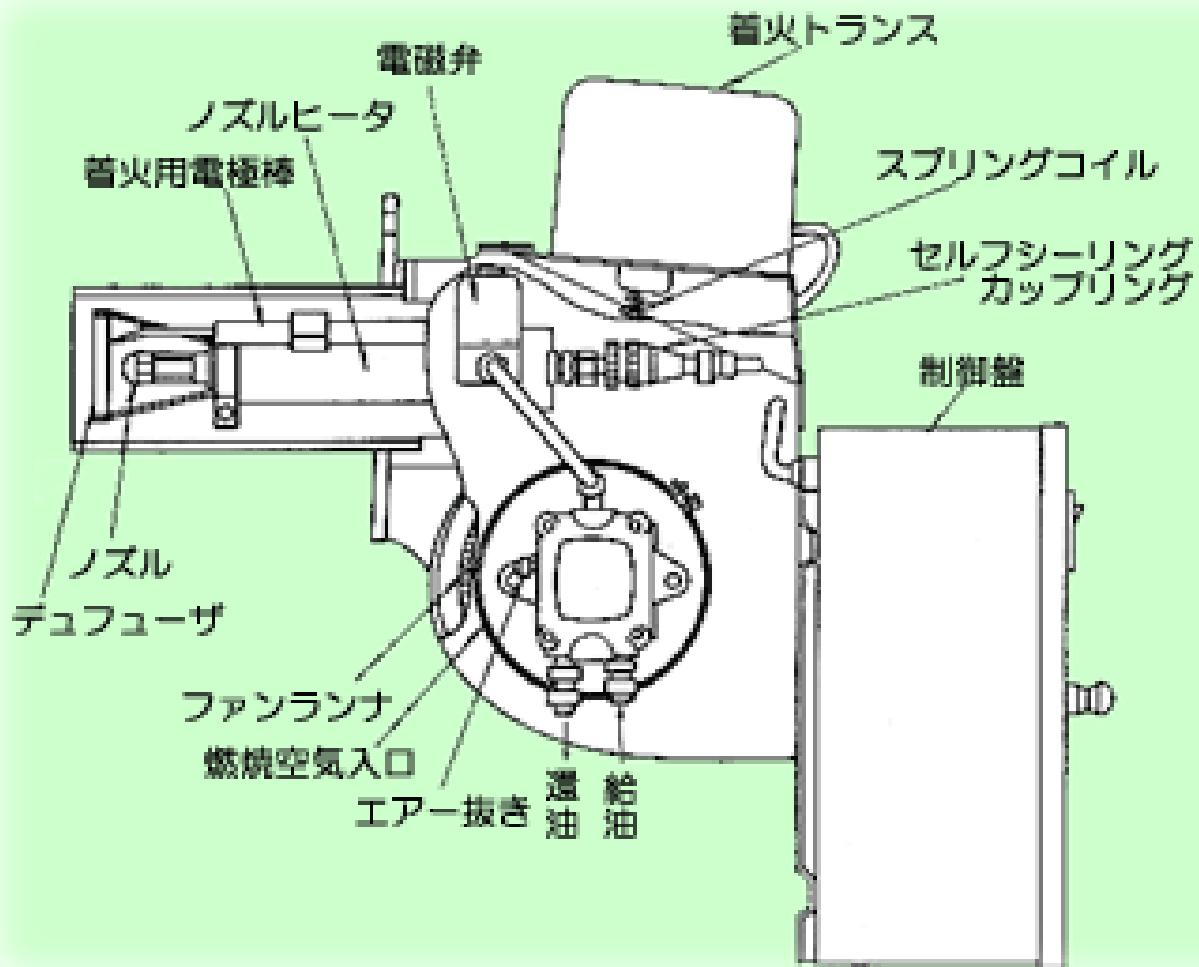
赤色の機種(ハウスカオソキ5 ~ 10型)の場合

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】	
STEP 1 ノズルの交換とデフューザの清掃	
300 ~ 600型の場合	8
150・200型の場合	11
STEP 2 ストレナの掃除	14
STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃	15
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
ちょっとひとこと	41
最後にお願ひ	42



STEP 1 ノズルの交換とディフュ - ザ - の清掃

加温開始編

赤色の機種

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

[300 ~ 600型の場合]

(1) 着火トランス用のツイストコンセントを外し、バ - ナ蓋の蝶ネジを外して、バ - ナ蓋を開けます。



(2) ノズルヒータのコンネクタ(2本)を外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

赤色の機種

(3) カブラ(ギザギザの部分を手前に)を引き、ノズルヒータセットを引き出します。



(4) ディフューザを固定しているネジを緩め、ディフューザを外します。

(5) ディフューザが汚れていたら、ワイヤブラシなどで汚れを落とします。又は、灯油・洗油などで洗います。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

赤色の機種

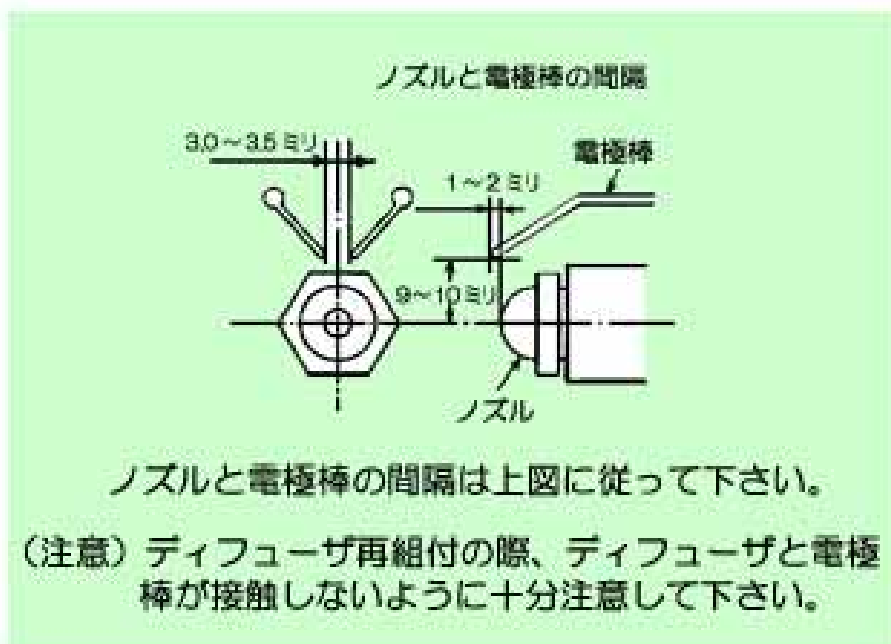
(6) ノズルを交換します。

(注意)

- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図のようにノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



- (7) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあった場合は必ず交換してください。
- (8) 取付は、逆の手順で行ってください。

STEP 1 ノズルの交換とデフュ - ザ - の清掃

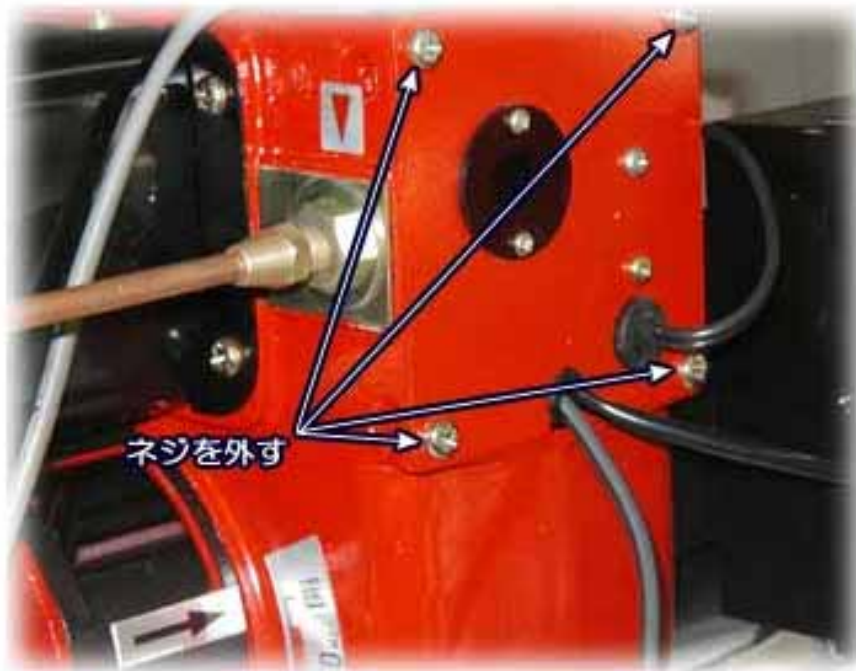
加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

赤色の機種

[150 ~ 200型の場合]

(1) バ - ナ背面の板のネジ(4箇所)を外し、板を外します。



(2) スパナで銅パイプを外し、ロックナットを緩めてノズルヒ - タを引き出します。

(注意) 引き出す際、着火トランスのスプリングコイルに引っ掛けないよう注意してください。



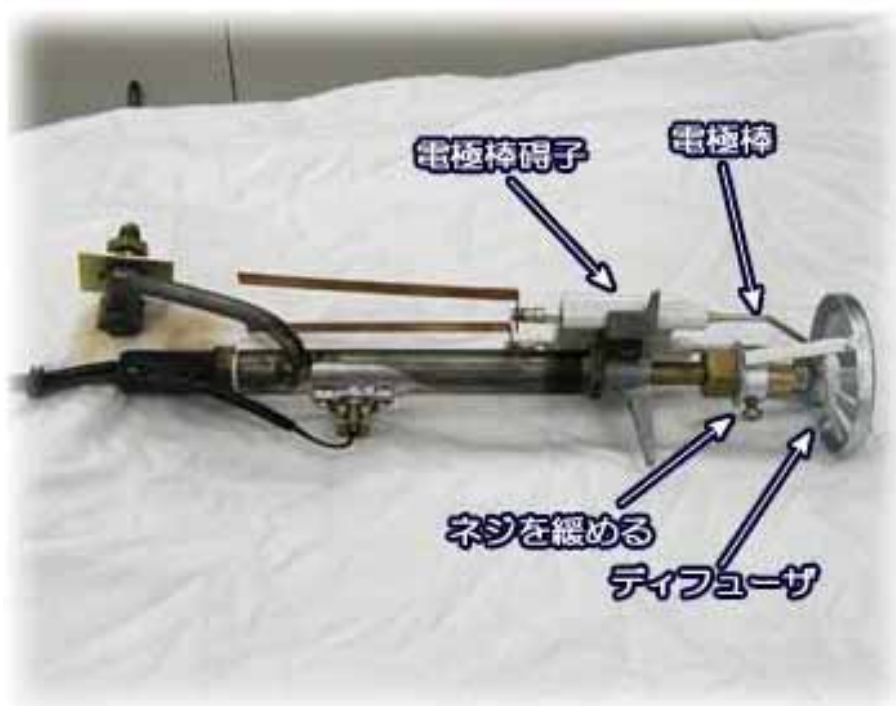
STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

赤色の機種

(3) ディフューザを固定しているネジを緩め、ディフューザを外します。

(4) ディフューザが汚れていたら、ワイヤブラシなどで汚れを落とすか、又は、灯油・洗油などで洗ってください。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

赤色の機種

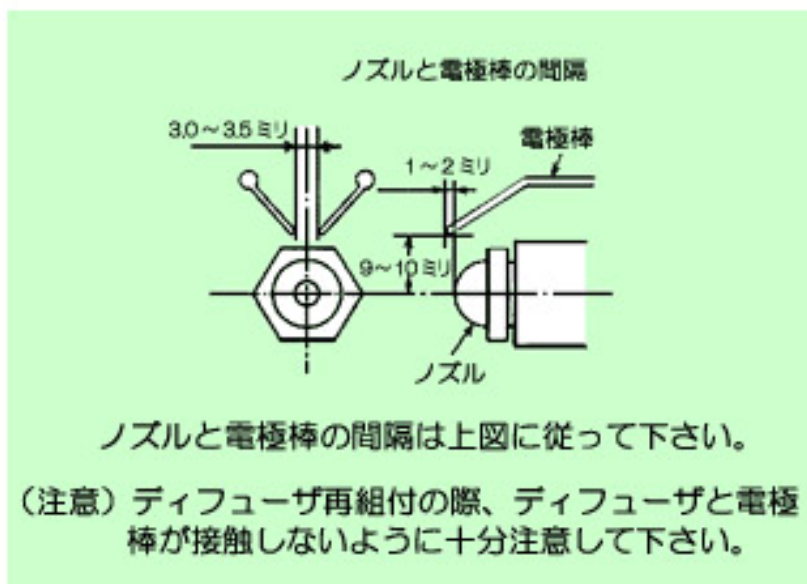
(5) ノズルを交換します。

(注意)

- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図のようにノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



(6) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあった場合は必ず交換してください。

(7) 取付は、逆の手順で行ってください。

(注意)

電極棒リ - ド板と着火トランスのスプリングがうまく合うようにしてからロックナットを締めてください。

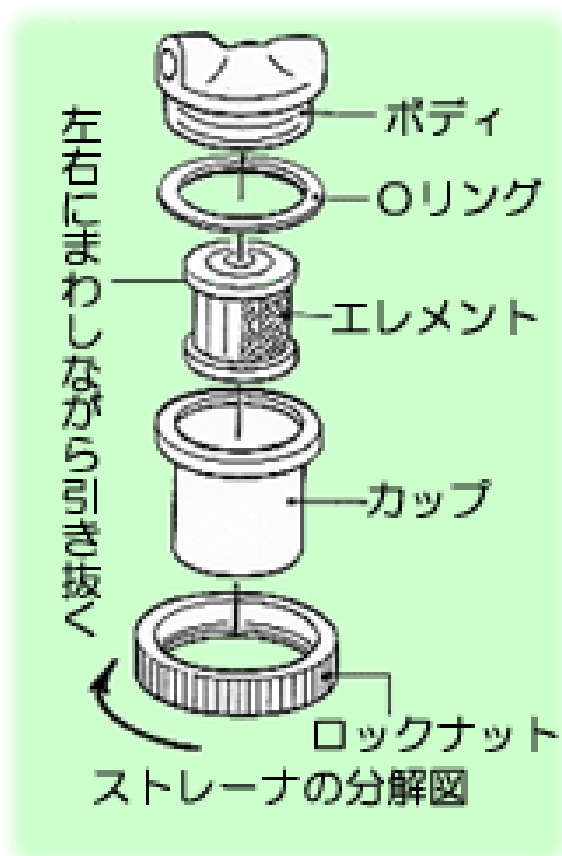
STEP 2 ストレーナの掃除

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

燃料中には、わずかでも不純物があり、オイルタンクや配管内に溜まった汚れはバ - ナ廻りの配管にも流れてきます。
この不純物や汚れはノズルを詰まらせるので、それらを除去する為に、「オイルストレ - ナ」・「ギヤポンプストレ - ナ」などがあります。

ストレ - ナが詰まると燃料も流れなくなり、不着火の原因になりますので、ストレ - ナは必ず定期的に掃除を行ってください。



1. ロックナットを左に回しボディより外します。
2. ロックナットを外しますと図の様に分解できます。
3. 灯油・洗油などで各部品を洗います。
(注意) エlementは、歯ブラシなどの柔らかいブラシを使って洗ってください。カップ内の汚れ・ゴミなどもきれいにしましょう。
4. 組み付けは、逆の手順で行ってください。

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

赤色の機種

火炎検出器(cds)は、字の通りバ - ナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【赤色の機種の場合】

ハウスカオンキ5型・6型

- (1) バ - ナ蓋を止めている蝶ネジの近くにある火炎検出器(cds)を引き抜く。
- (2) 受光面を柔らかいきれいな布などで清掃し、もとにもどす。

ハウスカオンキ8型・10型 [300～600型の場合]

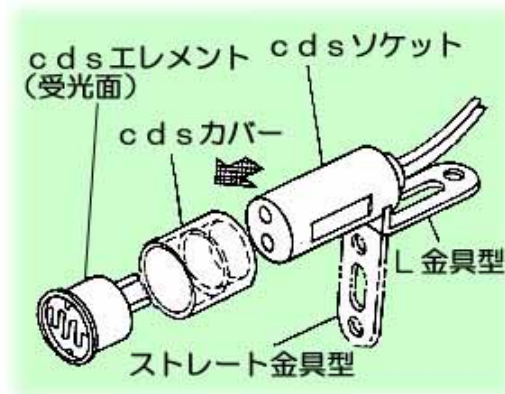
- (1) 着火トランス用のツイストコンセントを外し、バ - ナ蓋の蝶ネジを外しバ - ナ蓋を開ける。

ハウスカオンキ8型・10型 [150・200型の場合]

- (1) バ - ナ背面の板のネジ(4箇所)を外し、板を外します。



- (2) 図のように矢印の方向にcdsカバー - を引くとcdsエレメントが抜き取れます。



- (3) 受光面を柔らかいきれいな布などで清掃します。

- (4) 組み付けは、逆の手順で行ってください。

▶ 'STEP 4 点検・掃除が終わったら' P34へ

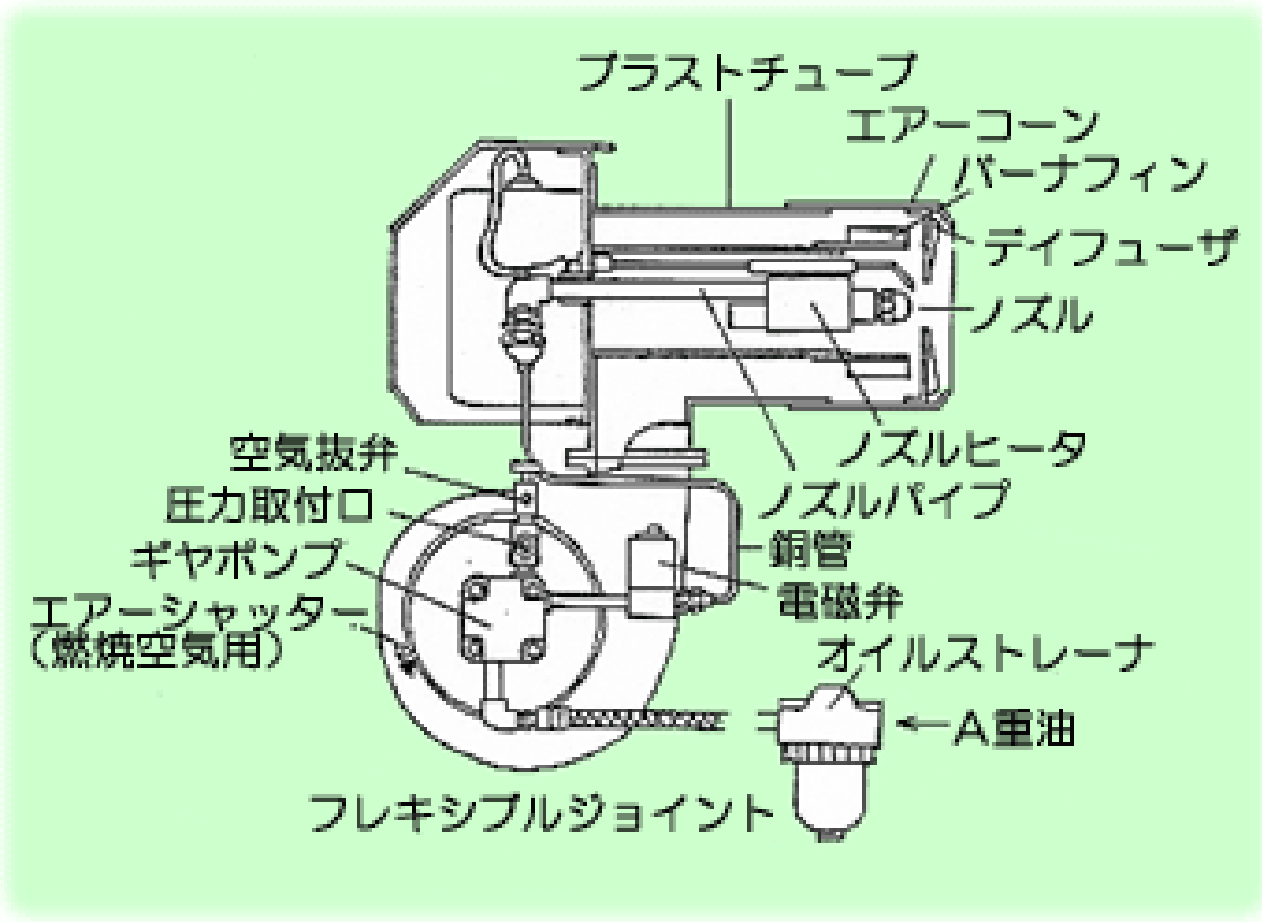
灰色の機種(ハウスカオソキ20・22型)の場合

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】	
STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃	17
STEP 2 ストレナの掃除	15
STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
ちょっとひとこと	41
最後にお願い	42



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

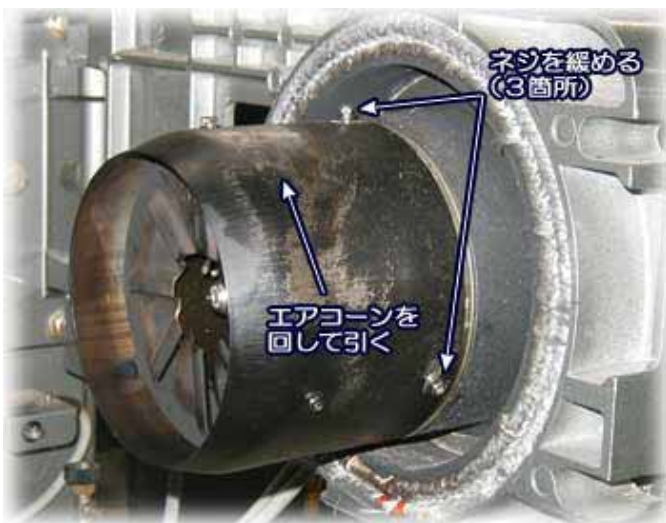
灰色の機種

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

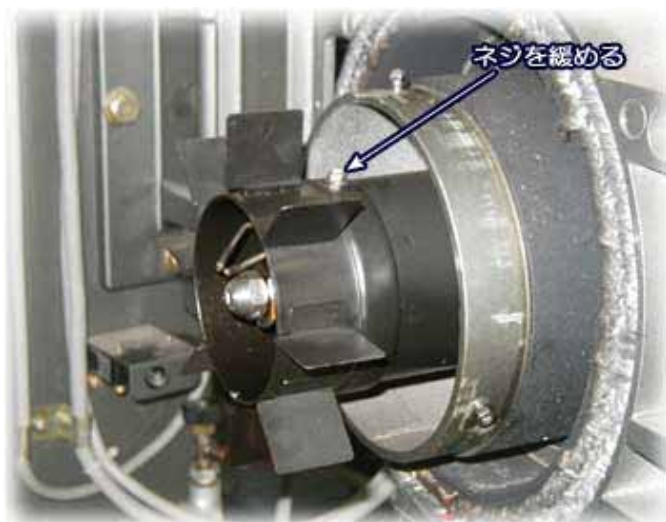
(1) バナヒンジを開ける。



(2) エアコンのネジ(3箇所)を緩め、エアコンを引き抜きます(回して外す)。



(3) バナフィンのネジを緩め、バナフィンを外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

灰色の機種

(4) エアコンに付いているディフューザやバナーフィン、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。

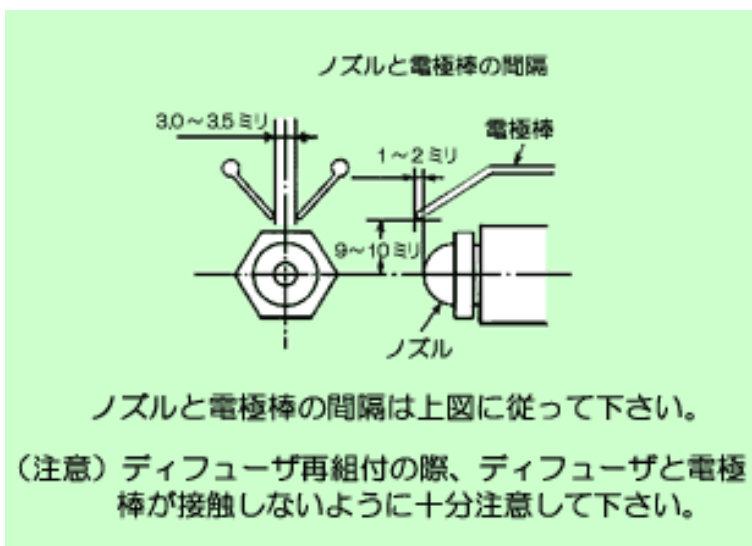
(5) ノズルを交換する。

(注意)

- ・ノズルを外すときは必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



(6) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあった場合は必ず交換してください。

(7) 取付は、逆の手順で行ってください。

(注意)

バナーフィンは、インナーチューブに押しつけた状態でネジ止めしてください。

また、エアコンのディフューザは、バナーフィンに押しつけた状態でネジ止めしてください。

➡ 「STEP 2 ストレナの掃除」 P15へ

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

灰色の機種

火炎検出器(cds)は、字の通りバ - ナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【灰色の機種の場合】

(1) バ - ナカバー - を外します



(2) 火炎検出器(cds)を固定しているネジを外しバ - ナより引き出します。



(3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。



(4) 清掃後、もと通り組み付けます。



「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

緑色の機種(ハウスカオソキ25型)の場合

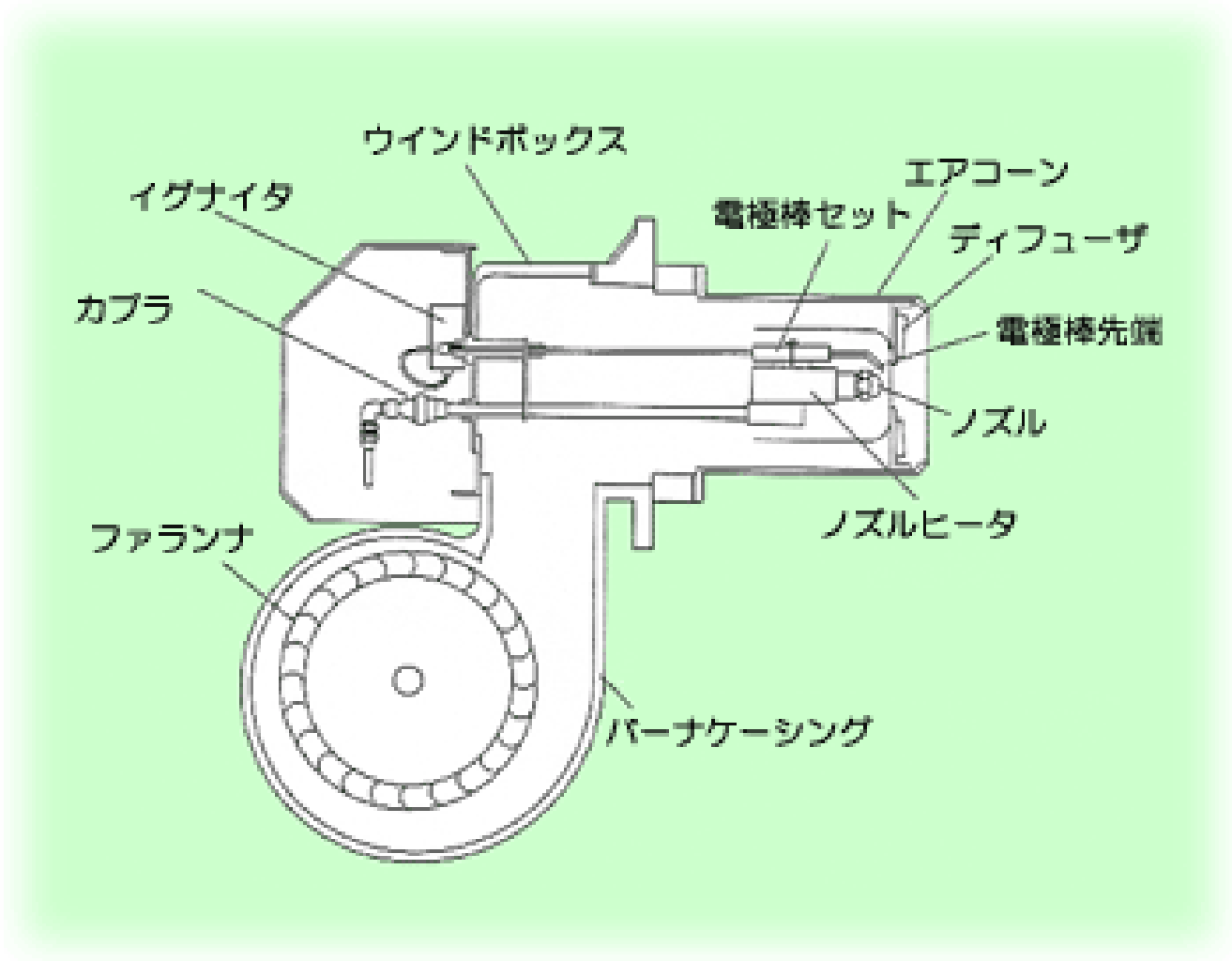
加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】

STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃	
25型には2つの掃除方法があります。	
方法	21
方法	24
STEP 2 ストレナの掃除	15
STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
ちょっとひとこと	41
最後にお願い	42



STEP 1 ノズルの交換とデフュ - ザ - の清掃

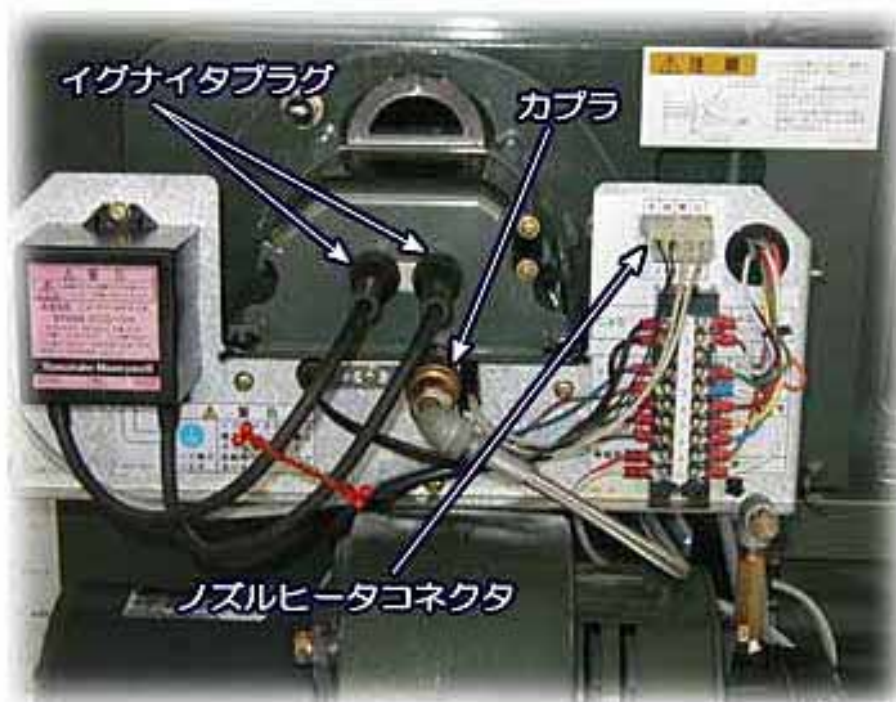
加温開始編

緑色の機種

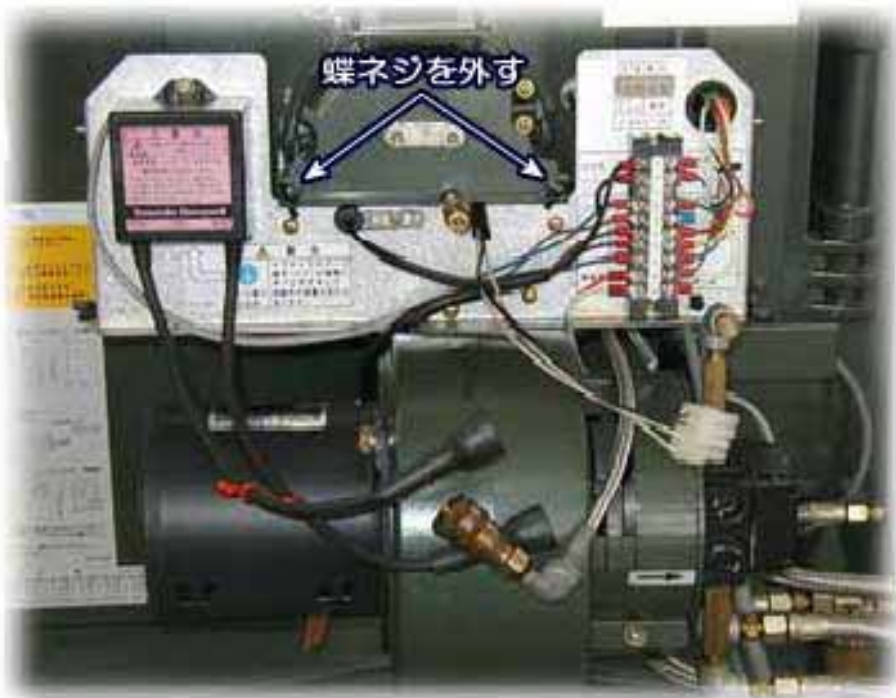
全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

[清掃方法]

- (1) バ - ナカバ - を外します。
- (2) カプラ・イグナイタプラグ・ノズルヒ - タコネクタを外します。



- (3) ウインドボックス蓋を外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

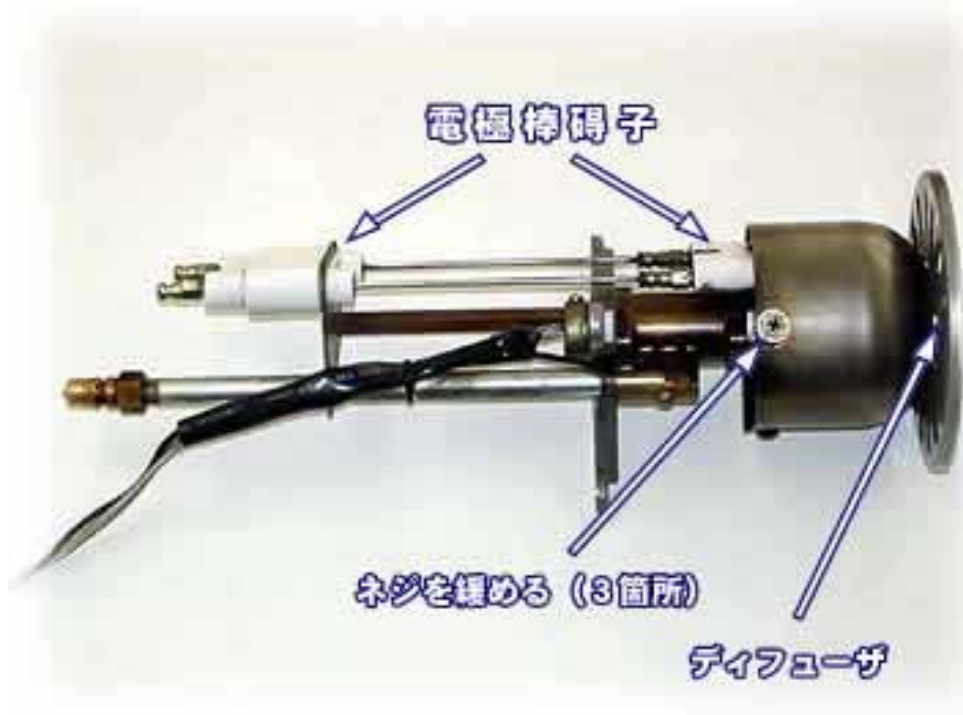
加温開始編

緑色の機種

(4) ノズルヒータユニットを取ります。



(5) ディフューザセットのネジ(3箇所)を緩めて、ディフューザセットを外します。ディフューザセットは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

緑色の機種

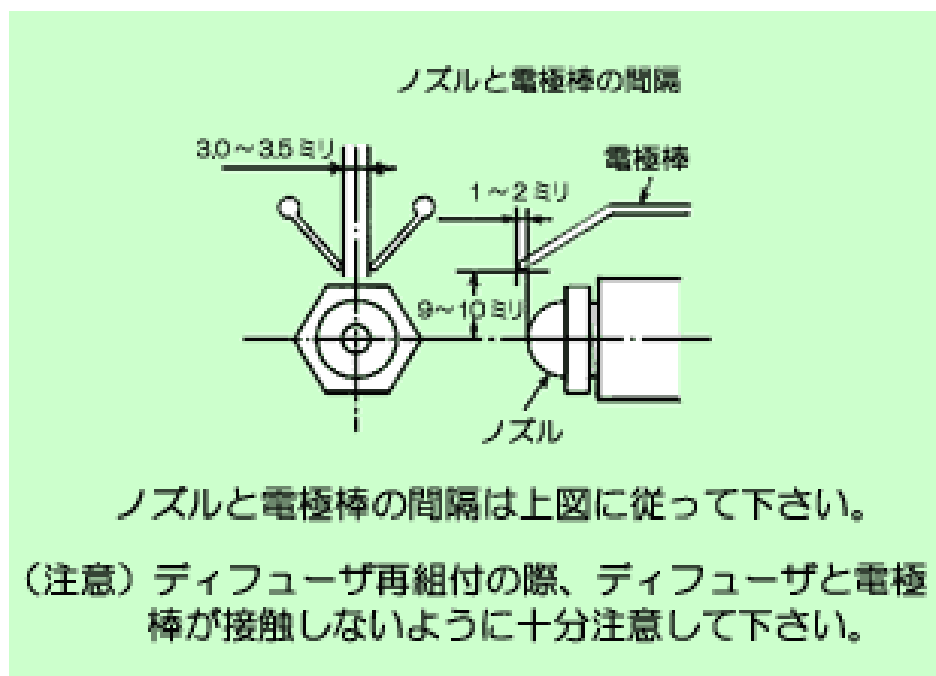
(6) ノズルを交換する。

(注意)

- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整して下さい。



(7) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあった場合は必ず交換してください。

(8) 取付は、逆の手順で行ってください。

イグナイトプラグは、ケーブルが交差しない様に取りつけて下さい。



「STEP 2 ストレ - ナの掃除」 P15へ

STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

緑色の機種

[掃除方法]

(1) バナヒンジを開けてエアコンのネジ(4箇所)はずし、エアコンを外します。



(2) ディフューザセットのネジ(3箇所)を緩めディフューザセットを外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフュ - ザ - の清掃

加温開始編

緑色の機種

(3) ディフュ - ザセットは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。
あるいは、灯油・洗油などで洗います。

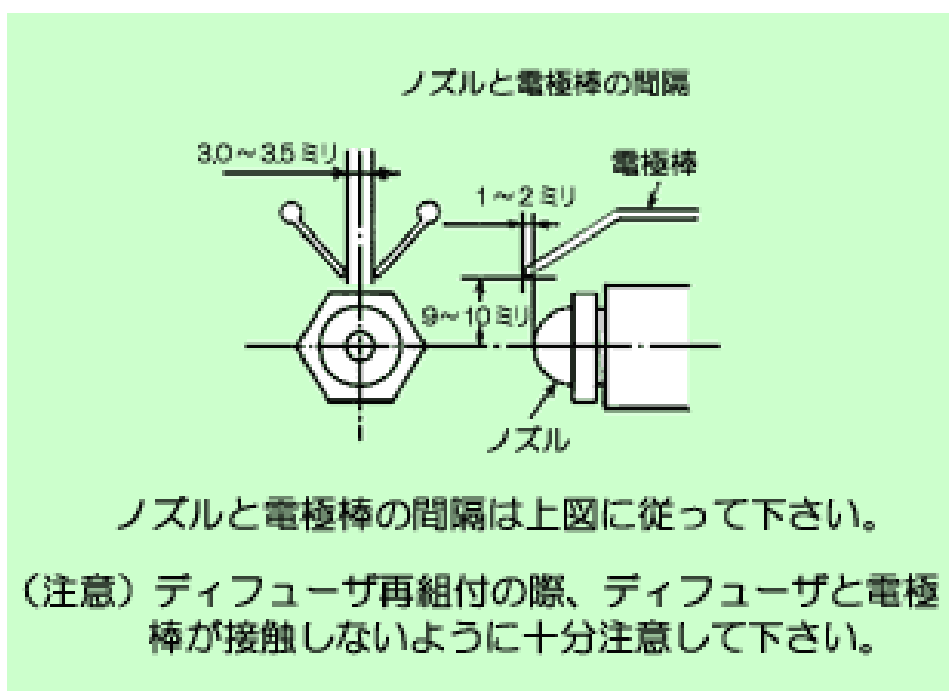
(4) ノズルを交換します。

(注意)

- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフュ - ザの位置関係を調整してください。



(5) 取付は、逆の手順で行ってください。



「STEP 2 ストレ - ナの掃除」 P15へ

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

緑色の機種

火炎検出器(cds)は、字の通りバ - ナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【緑色の機種の場合】

(1) バ - ナカバ - を外します。



(2) 火炎検出器(cds)を固定しているネジを外しバ - ナより引き出します。



(3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。



(4) 清掃後、もと通り組み付けます。



「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

オレンジ色の機種(ハウスカオソキ27型)の場合

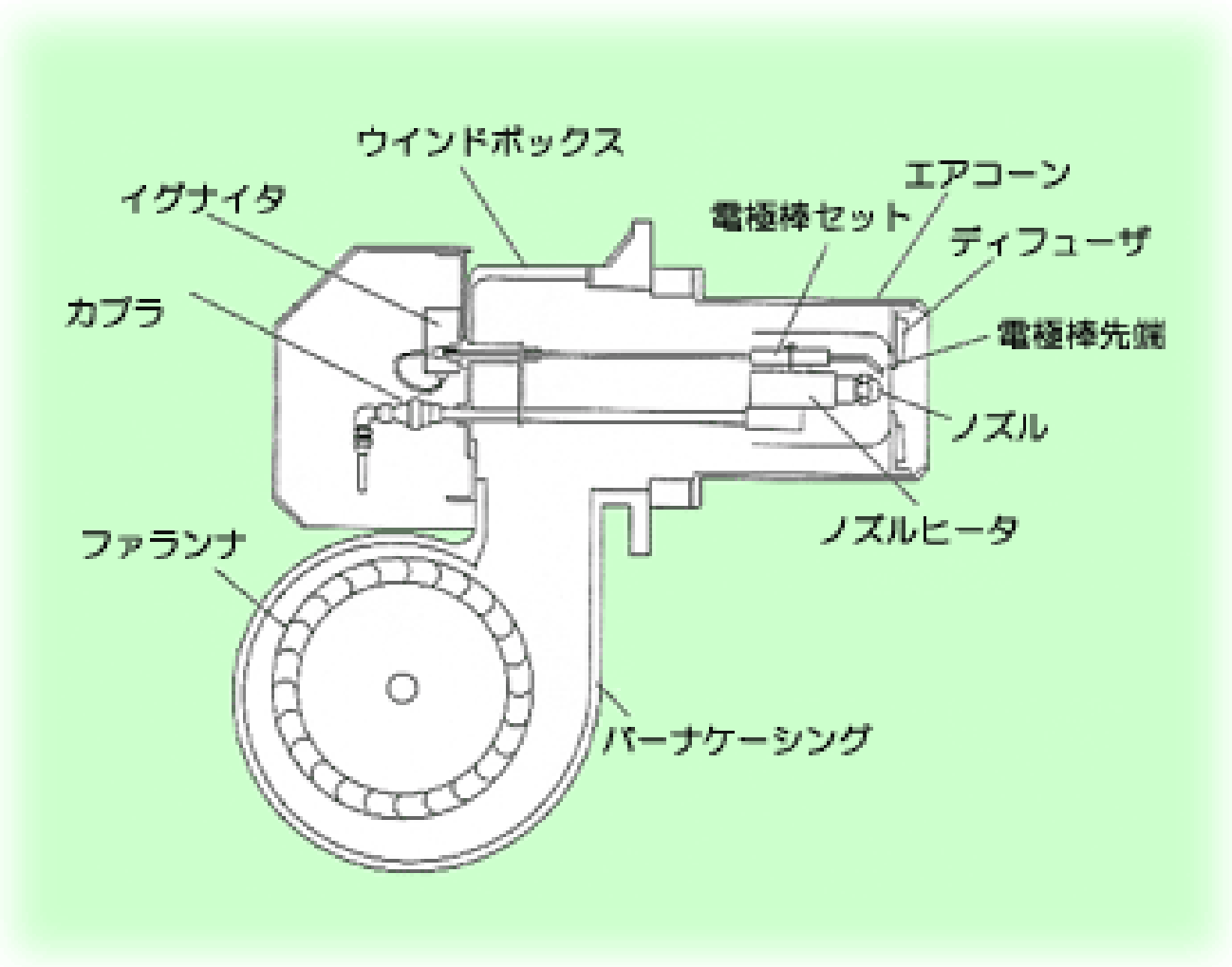
加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】

STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃	
27型には2つの掃除方法があります。	
方法	26
方法	21
STEP 2 ストレ - ナの掃除	15
STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
ちょっとひとこと	41
最後にお願ひ	42



STEP 1 ノズルの交換とディフュ - ザ - の清掃

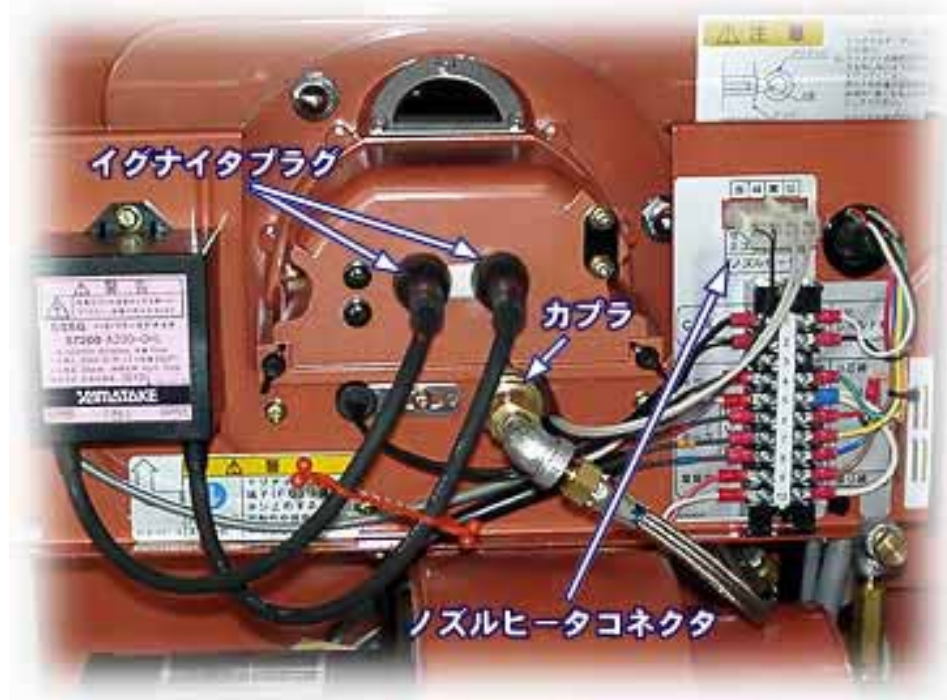
加温開始編

オレンジ色の機種

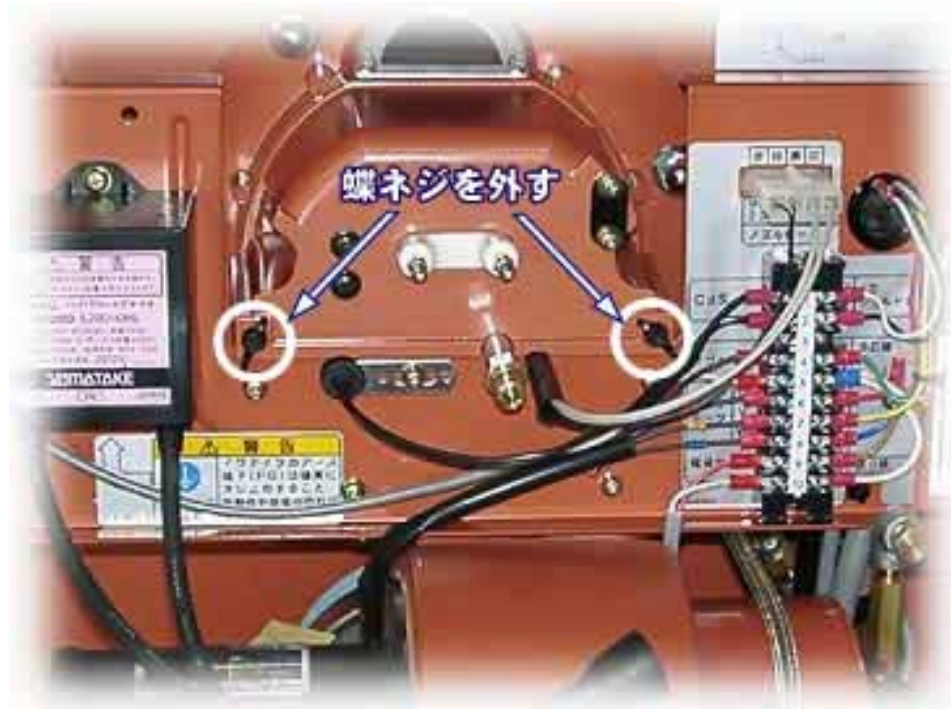
全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

[清掃方法]

- (1) バ - ナカバ - を外します。
- (2) カブラ・イグナイタプラグ・ノズルヒ - タコネクタを外します。



- (3) 蝶ネジを外し、ウインドボックス蓋を外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

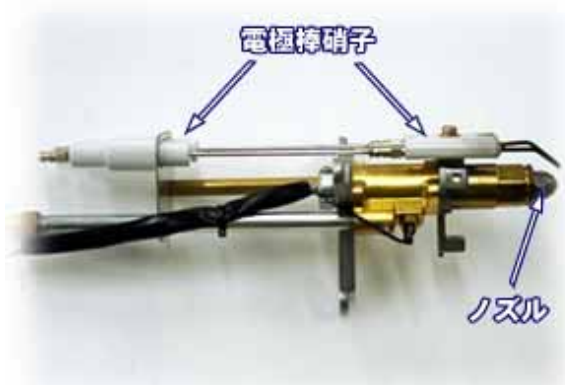
オレンジ色の機種

(4) ノズルヒータユニットを取出します。



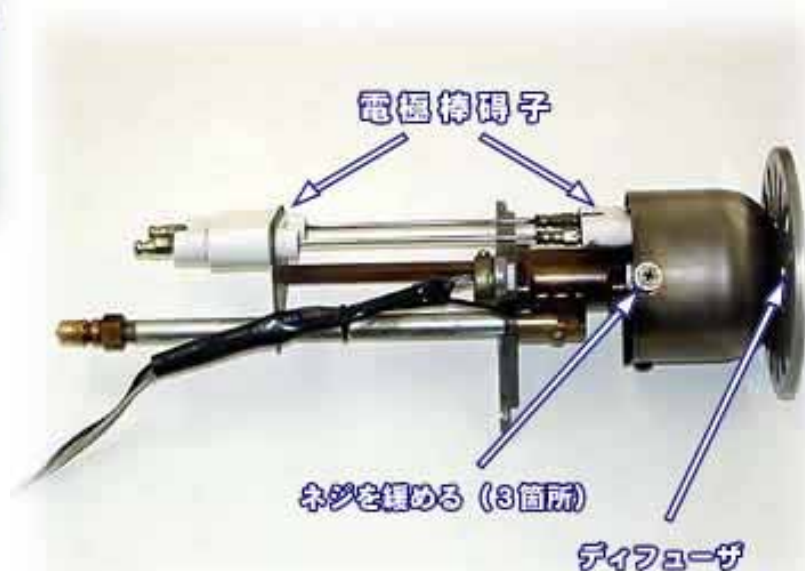
1527、2027、3027の場合

➡ 「(6)ノズル交換」 P30へ



4027、5027、6027の場合

(5) ディフューザセットを外す。
ディフューザセットのネジ(3箇所)を緩めて、外します。ディフューザは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。
あるいは、灯油・洗油などで洗います。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

加温開始編

オレンジ色の機種

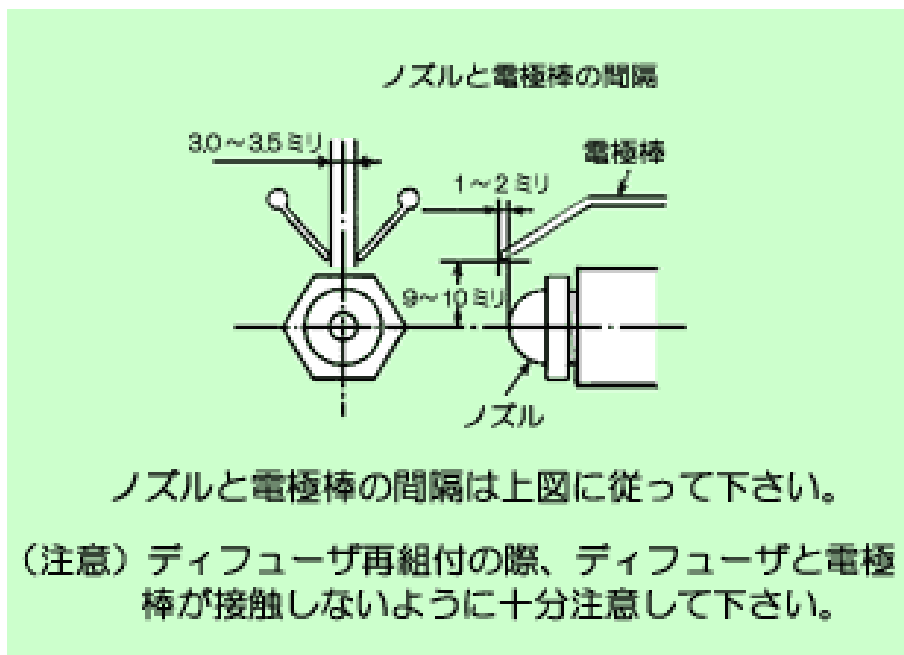
(6) ノズルを交換する。

(注意)

- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整して下さい。



(7) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあった場合は必ず交換してください。

(8) 取付は、逆の手順で行ってください。

イグナイトプラグは、ケーブルが交差しない様に取りつけて下さい。



「STEP 2 ストレ - ナの掃除」 P15へ

STEP 1 ノズルの交換とデフュ - ザ - の清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オレンジ色の機種

[掃除方法]

(1) バ - ナヒンジを開けてエアコ - ンのネジ(4箇所)はずし、エアコ - ンを外します。



< 1527、2027、3027の場合 >

< 4027、5027、6027の場合 >

➡ (3) デフューザーの掃除 P32へ

(2) デフュ - ザセットのネジ(3箇所)を緩めデフュ - ザセットを外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃

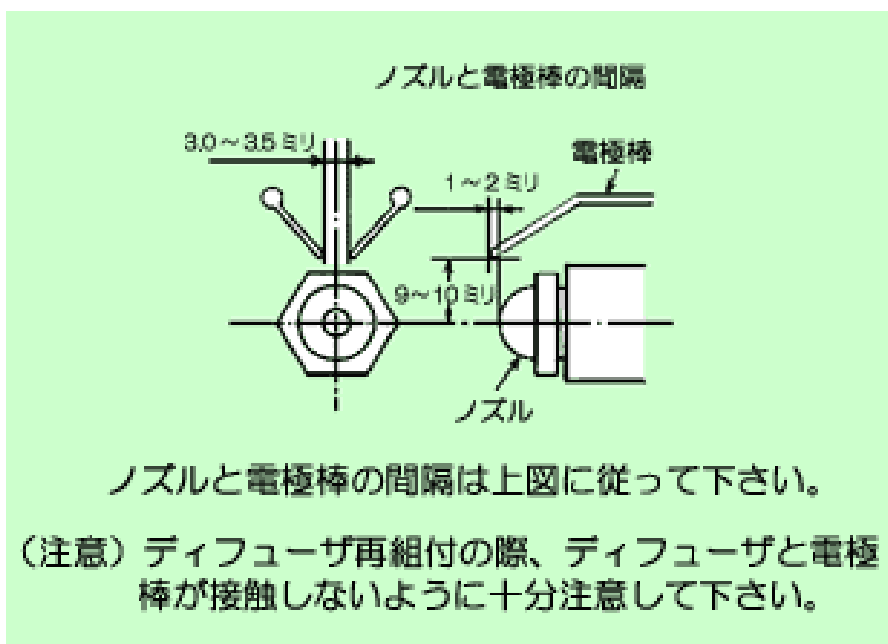
加温開始編

オレンジ色の機種

- (3) ディフューザの掃除
ディフューザが汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。
あるいは、灯油・洗油などで洗います。
- (4) ノズルを交換します。
(注意)
- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 - ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 - ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



- (5) 取付は、逆の手順で行ってください。



「STEP 2 ストレ - ナの掃除」 P15へ

STEP 3 火災検出器(cds)の清掃

加温開始編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オレンジ色の機種

火災検出器(cds)は、字の通りバ - ナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火災検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【オレンジ色の機種の場合】

(1) バ - ナカバ - を外します。



(2) 火災検出器(cds)を固定しているネジを外しバ - ナより引き出します。



(3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。



(4) 清掃後、もと通り組み付けます。



「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

STEP 4 点検・掃除が終わったら

加温開始編

作業が終わったら試運転を行いません。併せて作業箇所の確認をしましょう。

[1] 電源を投入し、給油コックを開き運転スイッチを「ON」にします。

[2] 油配管内の「エア抜き」を行います。

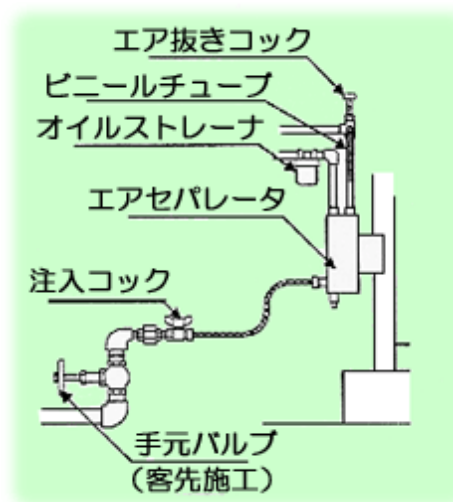
1. エア抜きコックを開け配管内とエアセパレータのエアを抜きエアがなくなったら コックを閉じる。
2. オイルストレナ上面のネジを緩めエアを抜く。エアがなくなったらネジを締める。
3. ハウスカオソキの温度設定を最大(35)にしてハウスカオソキを起動させる。
4. バ - ナモ - タが回転したら数秒後に運転スイッチを「停止」にする。
5. エア抜きコックを開けエアを抜きエアがなくなったらコックを閉じる。
6. 上記(3)～(5)をエアが出なくなるまで繰り返し行う。

[3] 作業箇所の異常その他を確認する。(油漏れなど)

[4] 新しい油で5分位運転する。

運転開始後は、煙突から出る排気ガスの色を確認してください。

着火時に多量の白煙、燃焼時に黒煙が出る場合は、エアシャッタのネジを緩め、開度の調整が必要です。



[代表的な油配管例]

白煙の場合：シャッタを閉じ気味にして燃焼空気量を少なくして調整してください。

黒煙の場合：シャッタを開け気味にして燃焼空気量を増やして調整してください。

(注意)

エアシャッタの調整後、すぐに排気ガスの色は変わりません。しばらくした後に変わりますので、時間をかけて行ってください。

着火・燃焼中に白煙・黒煙が出なければエアシャッタの固定ネジを締めてください。

STEP 4 点検・掃除が終わったら

赤色の機種(ハウスカオンキ5~10型)の場合



灰色の機種(ハウスカオンキ20・22型)の場合



緑色の機種(ハウスカオンキ25型)の場合



オレンジ色の機種(ハウスカオンキ27型)の場合



以上でメンテナンス作業は終了です。お疲れ様でした。

【加温終了編】

シーズンオン 春～夏

冬季のハウス栽培では、広く使われ、
欠くことのできない温風暖房機ですが、
春も過ぎ季節は初夏となり、暖房機にも
専用カバーを掛ける頃となりました。

すでに暖房シーズンも終了した方、
そろそろ終了する方など様々なようですが、
今回はカバーを掛ける前に
お願いしたい事をまとめてみました。



加温終了編

シーズンオフ 春～夏

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

【メンテナンスの方法】

STEP 1 缶体の掃除はシーズンオフに！ ～掃除の方法～	37
STEP 2 油配管のバルブ操作	39
STEP 3 元電源は必ず切る！	40
STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し	40
ちょっとひとこと	41
最後にお願ひ	42

STEP 1 缶体の掃除は、シ - ズンオフに ～掃除の方法～ 1/2

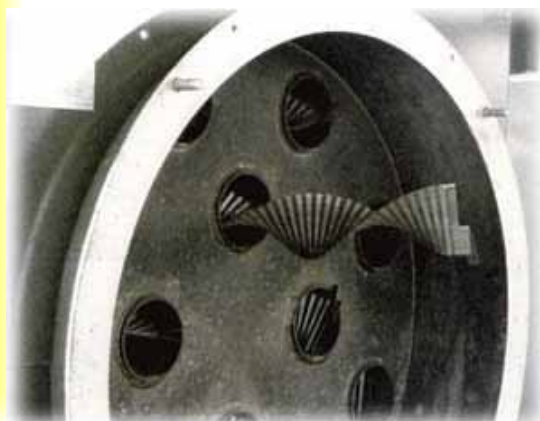
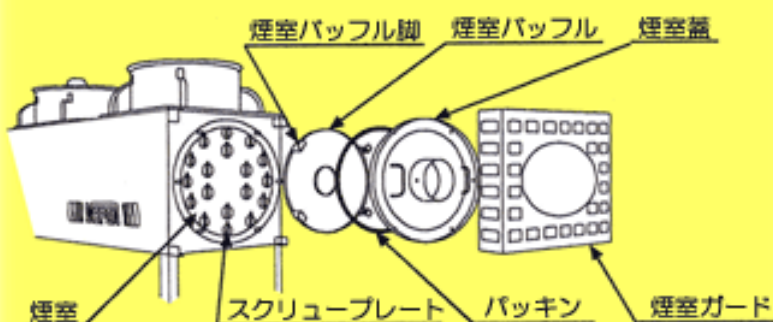
A重油を燃料とした場合、燃料に含まれる硫黄や灰分などがカスとして缶体内に溜ります。

そのままにして(掃除をしないで)おくと煙管が詰まり黒煙が出たり、不着火になったりと、大きなトラブルの原因になります。

このカスは湿気を帯びやすく乾けば固まる性質を持っています。また、長期に放置しておくと缶体腐蝕を助長することもあります。

そこで暖房シ - ズン終了の時点で缶体清掃をお奨めします。

【1】後部の煙室蓋を外し、スクリーブプレートを抜きます。

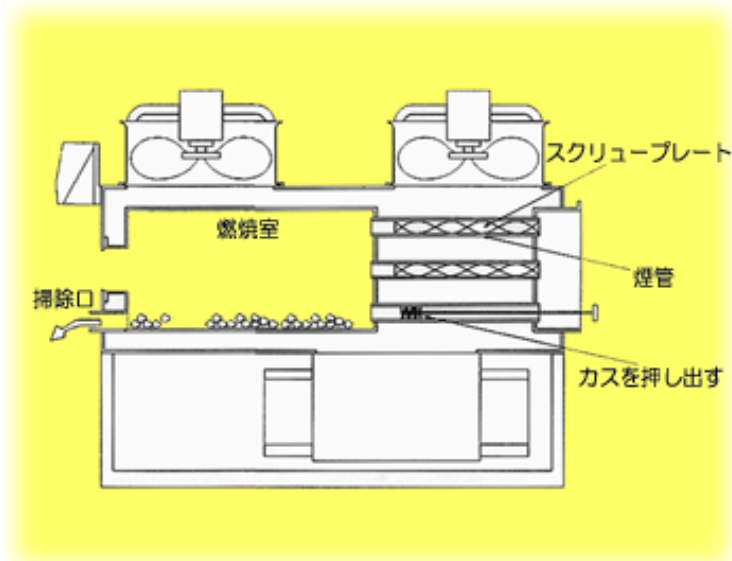


STEP 1 缶体の掃除は、シ - ズンオフに 2/2

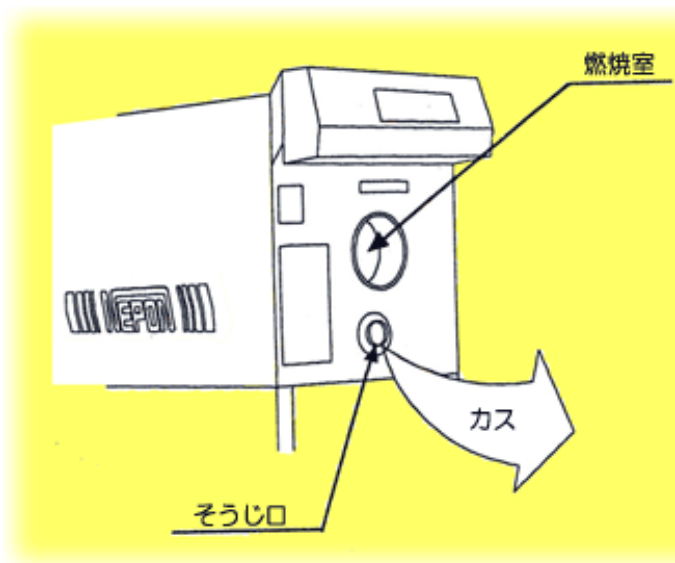
加温終了編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

【2】煙室に溜まったカスを掃出し、スクリュープレートの汚れをワイヤブラシなどで落します。



【3】煙管に溜まったカスは、燃焼室側に押し出し、バ - ナ下の掃除口から掻き出します。



【4】煙室や掃除口のパッキンが古くなったり、つぶれていたり、破損している場合には、必ず新しいものと交換してください。(排気ガスが漏れガス害になる危険性があります。)

【5】最後に(1)～(4)の逆の作業を行い、元通りに復元しましょう。

【6】掃除の後には、続いて油配管のバルブ操作などを行ないます。

STEP 2 油配管のバルブ操作

加温終了編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オイルタンク内の燃料は、なるべく使い切るのが理想ですが、余ってしまうものです。

いたずら等での流出事故や防災上の観点からも、オイルタンクのバルブは閉めてください。

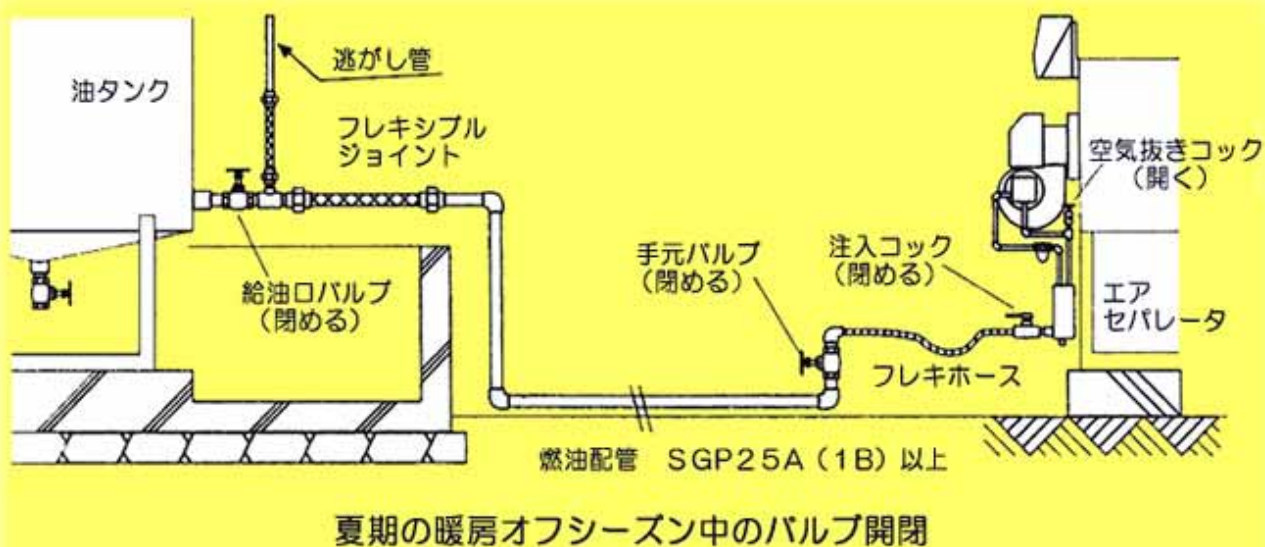
油配管内は、夏季の直射日光や高温で燃料が膨張し圧力が非常に高くなり、バ - ナの部品を破損することもあります。

このような場合は、エアセパレ - タのエア抜きコックを開けて膨張してあふれる油を空き缶等で受け、圧力を逃がしてください。

但し、シ - ズンが始まる時には、必ずエア抜きコックを閉じてください。

そのままオイルタンクのバルブを開けるとエア抜きコックから油が流れ出し、流出事故の原因となります。

油タンクに、膨張逃がし管を設備するのも良い対策と言えるでしょう。

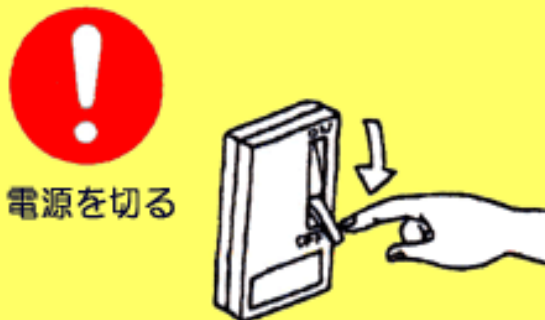


STEP 3 元電源は必ず切りましょう。

加温終了編

全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

専用カバーは、通気性にも気を使っていますが、制御盤内は、梅雨時期の湿気などで露がついたりする場合があります。それが、古びニールではなおさらです。漏電による事故防止や節電の意味合いからも元電源は、必ず切ってください。



STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し

夏季、ハウスを使用しない場合や被雷の恐れのある場合は、制御盤および付属コード類を外して、湿気の少ない涼しい所に保管してください。

高温のハウス内にそのまま放置しておくと故障の原因になる恐れがあります。

ちょっとひとこと

加温開始編

ハウスカオんキを末永くお使い頂くためにメンテナンスのポイントをご説明しましたが、暖房シーズン中に日常でお願いしたい点も若干記しておきます。



本体周辺の整理整頓

火気を扱うものですので可燃物を周囲には置かないよう、火災には充分お気を付けください。



週に一度はチェック

機械部品をたくさん使っており、故障が少ないとはいえ「ない」わけではありません。

週に一度は、簡単な運転チェック(5～10分位運転)をして煙突・パナ・本体に異常がないか確認をお願いします。

修理にかかる時間も考えれば、運転チェックは午前中に行なうのが良いでしょう。



給油も、早めに午前中

不着火の原因の一番は、油関係のトラブルです。

もちろん油が無ければ運転できませんが、その他にも「暖房運転中に給油をして、油タンク内がかき混ぜられてタンクの底に溜まっていた沈殿物が配管内に入って不着火になった。」

などの例もあります。給油は出来るだけ早めに、小まめに、午前中の早めの時間がお奨めです。

最後にお願ひ-1/2

加温開始編

故障・不具合は無いにこしたことはありませんが、万が一、トラブルが発生し、サ - ビスマンが必要になった場合は、

慌てずに、お買い求め先のJA・販売店・代理店・弊社営業所へご連絡をお願い致します。

ご連絡の際には、ハウスカオンの型式・製造番号と不具合の症状を併せてご連絡頂ければ迅速な修理が行えます。

ハウスカオンの型式・製造番号は、図の様に本体に銘板が貼付けてあります。

ご協力をお願いいたします。

赤色の機種(ハウスカオンキ5～10型)の場合



灰色の機種(ハウスカオンキ20・22型)の場合



緑色の機種(ハウスカオソキ25型)の場合



オレンジ色の機種(ハウスカオソキ27型)の場合

